

見いっつけた

令和3年度
立山町立釜ヶ淵小学校
第1学年 学年だより
7月号

農園における自然とのふれあいを通して

昔、中国に、菊の花が見事に咲く庭がありました。ある夜、宴が催され、その席で、客の一人が「どうしたら、このように見事な菊の花を咲かせることができるのか」と庭の主へ聞いたところ、主は笑顔でこう答えました。「毎日、菊に自分の足音を聞かせてあげればよいのですよ」と。菊を愛する主が、毎日、菊を見に行き世話をしたことで、見事な花を咲かせたという話があります。実は、この話とよく似たことが、釜ヶ淵小学校の農園でも見られるのです。

釜ヶ淵小学校の朝。耳を澄ますと、子供たちのかわいい足音が、農園のあちらこちらからたくさん聞こえてきます。毎日、自分の野菜が大きくなっていないか、色付いていないかを確認のために、子供たちが野菜を見に行っているのです。そのせいか、足音を聞いた野菜たちは、植え付けた頃の荒い天候にもかかわらず、元気な緑色の葉をたくさん付け、その実は少しずつ大きく、そして色付いてきています。きっと毎日の子供たちの足音に、野菜たちが元気のエネルギーをもらっているからなのでしょう。

そんな農園では、いつも、ゆったりとした時間が流れ、自分の野菜がどんどん大きくなっていくことや収穫して家族と共に食べられることに喜びを感じている子供たちの姿が見られます。

「先生。ミニトマトの色が、赤くなってきたよ。今日取ろうかな。どうしようかな」と自問自答しながら、今日取ることになったRさん。次々ときゅうりがなってきたYさんに、きゅうりがなったことを知らせしてくれるMさん。「今日は、3つもピーマン取れたよ」と大切にピーマンを抱えていくAさん。「ぼくのナス。もう少し大きくなるまで待とうかな」と、成長を楽しみに待とうとするSさん。みんなで育てているスイカの雌花を見つけたKさん。すぐに、「先生。女の子の花、見つけたよ。花粉を付けたい」と言ってきます。それを聞いていたHさんも、「私も付けたい」と並びます。大きなオレンジ色のスイカがなる期待感に胸をふくらませているのでしょう。



このように、毎日、数えきれないくらいに生まれてくる子供たちのエピソード。10人の小さな農園の主たちによって、今日もチャレンジっ子の日記に新たな1ページが書き加えられていきます。では、そんなすてきな日記を紹介しましょう。

Sさんの日記（6/17）です。

なすびがとれたので、おみそ汁をつくりました。なすびをきるのが、たのしかったよ。なすびをにたら、おみずがみどりになったよ。おいしくできたよ。



1年生の野菜の中で早く収穫できたのは、Sさんのナスでした。

家に持ち帰った次の日、Sさんは自分でナスを切って、みそ汁にして食べたことを日記に書いてきました。その日は、くらしのたしかめの時間があったので、どのように作ったのか聞きました。指を傷つけないように猫の手にして切ったことや沸騰したお湯でやけどをしないように気

を付けたことをみんなに話しました。聞いていた子供たちは、お湯の色が緑色に染まったことや具材がナスだけのみそ汁を作ったことに驚いていました。1週間後には、2つ目のナスの花が咲いたことから、Sさんは次に漬物を作れることを楽しみにしています。

Yさんの日記（6/18）です。

きゅうりがのびたよ。はやくたべたいです。だって、しんせんなきゅうりのほうがいいからです。きゅうりのつるが、くるくるとどんどんのびてくるのが、おもしろいです。せんせいのつると、あくしゅしていました。

（6/24）

きょう、はじめてじぶんでつくったきゅうりをはさみでとりました。とてもうれしかったです。さっそく、おかあさんにぼてとさらだをつくってもらいました。きれいなみどりいろのきゅうりで、とてもおいしかったです。

興味ある対象をよく見ようとする観察眼の持ち主であるYさんは、自分のきゅうりの様子をよく見ながら、早く食べられることに大きな期待をもっていました。収穫の1週間ほど前には、きゅうりのつるがくるくる巻き付くおもしろさに気付きました。また、他の人の野菜とつるを巻きつけ合う様子を人同士が握手すると感じました。すばらしい感性の表れです。そして、きゅうりを収穫できたことがうれしくて、その日のうちにサラダを作ってもらったのでしょう。新鮮なきゅうりの緑色が心に残ったところも、画家のようですてきです。



このように、子供たちが野菜と関わり合える時間は、子供たちの健全な発達にとってすごく大切であり、生きる喜びや力を与えてくれています。学校生活で、「もう時間が来てしまったの」と思える農園にいる時間は、子供たちにとって魅力的で幸せな時間になっています。その時間から生み出される野菜との心の通い合いを通して、学校と家庭とがつながっていくようにも思われます。

また、これからの世の中においては、より高度な人造物があふれた状態からAI化が進み、人間と自然の乖離が、どんどん進んでいくことでしょう。そのような時代を生きていく時、野菜とふれあった自然体験が、子供たちの心の原風景をつくり、自然や人間を大切に愛する心をもった大人になる一助になってくれることでしょう。

「プラス1」開始

6月に入って、全てのひらがなを書くことができるようになり、自主学習の「プラス1」に取り組み始めました。自分で何をするか、取り組むわけを考えて行きます。始めのうちは、ノートではなく、書きやすいプリントスタイルで、行っています。

多くの子供たちは、たし算やひき算の計算カードを写して解いたり、国語の教科書を視写したりしてきます。また、その日あった出来事や知らせたいことを日記として書いてきます。特に、日記は事実と思ったことからなり、比喩を使ったすてきな文章で綴られていることが多く、心を動かされることがよくあります。

今後も、1日1枚に取り組み、学ぶ力を付けるための習慣を身に付けていくことができるようにしたいと思います。